奥出雲町合併10周年記念

奥出雲ウルトラおろち100㎞遠足（とおあし）

町内全地区を400名が駆ける

町内全地区を走破するマラニック大会「奥出雲ウルトラおろち100キロ遠足（とおあし）」の第1回大会が4月11日に開催されました。全国各地、北は北海道から南は沖縄までの37都道府県から403名が参加しました。

カルチャープラザに多前を一斉にスタート（60キロの部）

この大会は、町内の全地区をコースとした全長100キロのマラニック大会で、昨年「0回」大会として開催された「奥出雲ウルトラおろち100キロマラニック大会」が好評だったため、今回第1回大会として開催されました。

「マラニック」は、マラソンとピクニックを合わせた言葉で、自分のペースでゆっくりと、景色を楽しみながら走る競技です。今大会は3部門が設けられ、100キロの部には269名、60キロの部には72名、60キロリレーの部には10チーム62名が参加しました。

100キロの部はまだ薄暗い午前5時に横田小学校を、また60キロの部は午前11時にカルチャープラザ仁多前をそれぞれスタートしました。コースには、鬼の舌震や奥出雲おろちループなど町の名所が組み込まれ、標高差が約500メートルと起伏に富んだコースとなりました。

コース内の各所に設けられたエイドステーションでは、仁多米コシヒカリのおにぎりを始め、そば、焼きサバなど奥出雲の食が振る舞われ、ランナーからは、「地元の食を楽しみに来た」との声が聞かれました。

ランナーは、アップダウンの激しいコースに苦戦しながらも奥出雲町の自然を満喫し、制限時間となる午後9時までに100キロの部は214名、60キロの部は63名が完走しました。

互いに励まし合うランナー

さくらおろち湖でトレイルラン

今年で第3回目となる「さくらおろち湖トレイルランニングレース」が4月26日に、尾原ダムのさくらおろち湖周辺で開催されました。

この大会は、毎年この時期に開催されており、今年は県内外から去年よりも多い214人が参加しました。

トレイルランニングとは、舗装された道以外の山野を駆け抜けるマラソンです。今大会は約27キロのロングコースと約15キロのショートコースの2つのコースが設けられました。今年のコースは去年よりもトレイル率が上がり、参加者にとってはより厳しいコース設定となりました。

松江城鉄砲隊の号砲でスタート

要害山の登山道を駆け下りるランナー

松江城鉄砲隊の火縄銃の号砲でスタートし、最初のポイントとなる要害山麓の「みざわの館」を目指しました。

この日は雲一つない晴天で、また気温も昼に向けて上がったため、厳しい条件ではありましたが、コースの至る所で町民の励ましを受け、202人が完走しました。

参加者は、清々しい表情でゴールし「里山の景色を見ながらで気持ちが良かった」「コースが面白かった」という声が聞かれました。

新たな観光の拠点に

三井野原駅で竣工式

4月4日、今年最初のトロッコ列車の運行に併せて、3月末に完成した三井野原駅で竣工式が開催され、来賓や地元関係者など約60人が完成を祝いました。

トロッコ列車の到着に先立ち行われた竣工式では、JR米子支社の田中克也副支社長をはじめ、勝田町長、地元関係者らにより、テープカットが行われました。勝田町長からは「観光客のサービス向上と誘客に向けた取り組みを推進するためにこの施設を有効活用したい」とあいさつがありました。

この日が今年最初の運行となるトロッコ列車「奥出雲おろち号」は、出雲市駅での出発式のあと8時45分に同駅を出発しました。出雲八代駅では、布勢幼児園の園児によるホームでの出迎えなど町内の各駅で歓迎を受け、11時59分、三井野原駅に到着しました。

トロッコ列車が到着すると、横田の杜ブラスアンサンブルによる演奏や、八川幼児園の園児、奥出雲町観光大使の「すさのおくん」らが賑やかに出迎えました。

八川幼児園の園児らが賑やかに出迎え

三井野駅舎は、近年の観光客の増加による利便性確保のため、町がJR西日本から駅舎と土地を購入し、新たに休憩施設と多目的トイレを兼ね備えた観光施設（駅舎）として整備しました。

この施設はレンタサイクルを収納する部屋も備えており、観光振興と地域活性化に向けた活用が期待されます。